

ひと

東芝をラグビーのトップリーグ2連覇に導いた主将

ひろせ としあき
広瀬 俊朗 さん(28)

顔をくしゃくしゃにして場内を一
周した。1年前は自粛したウイニ
ングラン。無敵を誇ったチームの主将
になり3季目で「やっと、心から笑
える」。3度宙に舞った。

主将1年目、カリスマ性があった
高岡鉄平・前主将の影に苦しんだ。
「違う人間なのに、どこかで意識し
て……」。3連覇していたチームは

無冠に。昨季は部員の不祥事が立て
続けに発覚、一時は部の存続も危ぶ
まれた。優勝し、自身もMVPの活
躍だったが、達成感はなかった。

出直しを期した今季。「感謝」の
大切さを仲間にしき続けた。試合前
には必ず、チーム全員でスパイクを
磨いた。「道具に感謝することから
始めたかった。優勝して、少しは支
えてくれた人に恩返しできたかな」

大阪府出身。5歳で楯円球に出あ
い、北野高から慶大理工学部へ。名
門校の主将の傍ら、研究者の道を夢
見た。しかし、大学院進学の書類を
出し忘れるなど、どこか抜けた一面
も。論理的でリーダーシップのある
普段とのギャップが、仲間から「勝
たせてやりたい」と愛された。

家では、ブラームスなどクラシッ
クをよく聴く。高校の音楽講師の母
・律子さん(58)の影響だ。「オーケ
ストラもラグビーも、その一瞬を逃
すと取り返しがつかない。ピリピリ
感が似ている気がするんです」

ひさを痛めて準決勝は欠場した。
「決勝は僕の番」。感謝の思いは鬼
気迫るプレーに変わり、ウイニングと
して何度も防衛を突破した。

文・野村周平 写真・細川卓